

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-520	24-326	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Modulating the microbiome in chronic liver diseases - current evidence on the role of fecal microbiota transplantation 慢性肝疾患におけるマイクロバイオーーム調節 - 糞便微生物叢移植の役割に関する最新のエビデンス		
執筆者		
Srishti Saha ¹ , Bernd Schnabl ^{1,2}		
掲載誌		
Expert Rev Gastroenterol Hepatol. 2025 Jan;19(1):53-64. doi: 10.1080/		
キーワード	PMID	
アルコール関連肝疾患、MASLD、NAFLD、肝硬変、B型肝炎、微生物療法、微生物叢、原発性硬化性胆管炎	39760535	
要旨		
<p>はじめに：腸内細菌叢はヒト宿主と複雑な関係にあり、健康維持の鍵を握る。健康で多様な腸内微生物環境の破壊は、クロストリジオイデス・ディフィシル感染症（CDI）、炎症性腸疾患、過敏性腸症候群、アルコール関連肝疾患、代謝異常関連脂肪肝疾患（MASLD）など、複数の疾患の病態形成に重要な役割を果たす。糞便微生物移植（FMT）はCDI治療に極めて有効であるが、他の疾患への有用性については現在も研究が進められている。</p> <p>対象領域：本総説では、微生物叢の構成と機能における主要な変化に焦点を当て、肝疾患における腸内微生物叢の役割を探求する。FMTの役割に関する現在のエビデンスをまとめ、現行研究のギャップを特定し、今後の研究の方向性を概説する。関連研究を特定するため、2024年10月15日までにPubMedを網羅的に検索した</p> <p>専門家の見解：既存研究のデータは有望だが、肝疾患へのFMT適用にはさらなる研究が必要である。重点的な研究領域は以下の通り：各疾患に対する最適なFMTプロトコルの確立、大規模臨床試験による有効性・安全性の検証、FMT製剤への安全かつ公平なアクセスの確保、FMTの成功・失敗要因に関する機序解明。</p>		